アオメエソ属魚類の初期生活史
—分類と生態研究の現状

〇猿渡敏郎（東大海洋研）・平川直人（東京海洋大）・星野浩一（遠水研）・山内信弥（ふくしま海洋科学館）・正岡哲治（養殖研）・小林敬典・張成年（中央水研）

【目的】近年、沖合底曳網漁業の投棄魚であったアオメエソ類（*Chlorophthalmus* spp.）が“メヒカリ“の名称で全国的に流通されるようになり、地域的有用水産資源として注目を集めている。しかし、アオメエソ類の成熟個体と仔稚魚の採集報告例はなく、本属魚類の初期生態並びに生活史は全く不明である。2001 年より実施している本属魚類の初期生態に関する研究成果を紹介する。
【方法】淡青丸KT01-6, KT04-17, KT05-29 次航海、俊鷹丸２００４年度重要海産動物稚仔調査において採集されたアオメエソ属仔稚魚の標本を用いて形態学的、分子生物学的研究を実施した。
【結果】16SrDNA 塩基配列の比較から、日本周辺海域より報告されているアオメエソ属魚類 7 種中、アオメエソ（*C. albatrossis*）とトモメヒカリ（*C. acutifrons*）2 種の仔稚魚が確認された。アオメエソ仔稚魚は台湾東方海域から東シナ海南部、薩南海域にかけて合計 166 個体が採集された。トモメヒカリは、台湾東方海域から仔魚が 1 個体のみ採集された。仔稚魚と成魚の分布・出現状況に関する情報を統合すると、アオメエソ属魚類は、黒潮を介した大回遊を行なう小型底魚であることが示唆された。